

主 日 礼 拝 順 序

(降誕前第 7 主日)

11 月 8 日 午前 10:15~11:15

司会 市野瀬翠執事

前	奏			
招	詞			瀬尾千絵姉
頌	栄	5 3 9 (起立)	一	司 会 者
主	の 祈		一	同 同
交	読 文	2 8 (詩 1 1 9)	一	同 同
讃	美 歌	1 2 1 (起立)	一	同 同
聖	書	エレミヤ 6:13~21		
		(共旧 1186 頁 / 初旧 1374 頁)		

牧会祈禱		岩井牧師
合 唱	Ⅱ 2 9 (1,3,4)	聖 歌 隊
説 教	「問いつつ生きる」	

		岩井牧師
讃 美 歌	Ⅱ 1 9 8 (起立)	一 同
献 金		一 同
頌 栄	5 4 2 (起立)	一 同
祝 禱		岩井牧師
応 唱		聖 歌 隊
報 告		市野瀬翠執事
後 奏		瀬尾千絵姉

エレミヤ 6:13~21

「身分の低い者から高い者に至るまで皆、利をむさぼり、預言者から祭司に至るまで皆、欺く。彼らは、わが民の破滅を手軽に治療して、平和がないのに『平和、平和』と言う。……しかも、恥ずかしいとは思わず、嘲られていることに気づいていない。」(6:13~15)

エレミヤの初期預言の言葉だ。ユダ王国の首都エルサレムに向かって語られている。

「身分の低い者」という訳は気になる。「小より大に至る」(関根訳)の方がよい。社会機構での役割の違いをいう。今日では「吏員より市長に至るまで」ということか。「和歌山市長を逮捕、秘書課長も」(11月3日火曜日)。文化の日の新聞各紙第一面。「政治資金規正法違反逮捕中島洋次郎衆議院議員」「法相、利害絡む事件で指示」など、近日の新聞をたどれば、これが「私たち」の生きている「国」「民族」なのだということを思い知らされる。「手軽に治療」(14節)。TVニュースからは「国民1人3万円の商品券を配ったらよからう」などとの政策が放映される(4日)。こんな事で、大切な週報の紙面をつぶしたくないが、10年たってエレミヤを再読した時との比較のために、と思う。このあたりに適確な批評を加えているのは加藤周一氏「夕陽妄語」(朝

日98.10.21。「文化」の「むだ遣い体制」の一文である。中央政府につき論じたあと、「地方には、たとえば神戸空港計画というものがある……どれほど利用されるのか……どれほどの税金を投入するのか、その見積りは全く明瞭でない……住民投票を求める市民運動が起ったのは当然である」と。そして「思えば、日本国は、軍事大国として失敗した。今では経済大国として弱点を曝露している。その次に文化的貧困化の時代が来ないことを、私は願う。」と結んでいる。13~15節の注解、「鎮静剤では疾患は癒されない」(A.ワイザー、『エレミヤ』)は暗示に富む。

この個所の本題は16~17節。「主はこう言われる。『さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ、どれが幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。』「幸い」は訳が甘い。「救」(ワイザー)、「よき道の所在」(関根)の方がよい。二つのことが言われている。一つは歴史と伝統(神との関係・律法)。「安らぎ」はマタイ11:29に引用あり。第二は預言者の働き(17節「見張りを立て耳を澄まして角笛の響きを待て」)。エレミヤ書の言葉を、今の時代に、自からの「肉」とするまで、読んでいきたい。(岩井記)